

## 霞ヶ浦で急増するダントウボウ

萩原富司\* 熊谷正裕\* 諸澤崇裕\* 荒井聡\* \*：土浦の自然を守る会

霞ヶ浦江戸崎入りに設置された定置網とその周辺において 2000～2010 年という短期間に、オオタナゴ *Acheilognathus macropterus*, コウライギギ *Pseudobagrus fulvidraco*, カダヤシ *Gambusia affinis*, ダントウボウ *Megalobrama amblycephala* の 4 種の国外外来魚が確認、同定された。その後ダントウボウは、2016-17 年には確認例は若魚や成魚 4 個体に止まっていたものが、2018-19 年には 54 個体と急増しており、本稿は増殖と生息域拡大の注意喚起のための報告としたい。

2001 年 12 月に霞ヶ浦の江戸崎入りの漁師諸岡清志氏の営む定置網に入網した大量のオオタナゴを確認した。オオタナゴは 2000 年代初頭に小野川河口から清明川河口、北浦へと分布を拡大し、2005 年頃には霞ヶ浦全域に拡散したことが推察されており、本種の再生産が小野川河口付近に限定されていることから、小野川河口と新利根川河口で行われている真珠養殖との関係が示唆された（萩原ほか、2017）。

2010 年 9 月にはこの定置網にてコウライギギを確認した。本種について、筆者らの試料も含めて霞ヶ浦で採捕、保管していた計 8 個体について形態学、遺伝学的に調査・研究された結果、コウライギギであることが明らかとなった（荒山ほか 2012）。その後、利根川中流域の渡良瀬遊水地で得られた標本の DNA は霞ヶ浦で報告されたものと一致した（新田ほか 2017）。また、2017 年には手賀沼、2018 年には渡良瀬遊水地巴波川（うずまがわ）支流においても本種が採取されており（萩原ほか、未発表）、利根川中、下流域に定着していることが明らかとなった。

茨城県におけるカダヤシの生息は利根川に沿って確認されているが、詳細は不明であった（環境省 2016）。筆者らは 2002-18 年にかけて、利根川の流下方向に沿って 4 点で本種を確認したほか利根川支流の坂東市沓掛の水路、霞ヶ浦の干拓地である余郷入り導水路で確認した（萩原ほか、印刷中）。埼玉県と千葉県では、それぞれ 19、16 市町村で生息記録がある（和田、1979）ため、茨城県内の生息域が、利根川を介した拡散である可能性が高い。カダヤシ、オオタナゴ、コウライギギは、特定外来生物に指定されている（環境省 2016）。

2009 年 4 月にはこの定置網にてダントウボウを初めて確認し、その後 2012 年、2014 年に相次いで入網した。その後 2016～2017 年には若魚や成魚 4 個体が相次いで採集された。2018 年に入ると、釣り人、漁師からのダントウボウ確認の情報が相次ぎ、11 月になり美浦村の漁港においてタナゴ釣りを実施したところ、ダントウボウの新規加入と思われる若魚が繰り返し釣獲された。これまでのところ、2018-19 年には 54 個体が確認された。本種は霞ヶ浦江戸崎入り周辺で成長と繁殖が行われており、維管束植物に粘着卵を産出するとされ（伍献文ほか、1980）、タナゴ類のように特定の産卵基質を必要としないので、霞ヶ浦と水路、農業用水で接続されている千葉房総半島や栃木県、群馬県の東部、埼玉県に広がる可能性もあり、今後の生息情報の収集が必要である。